

# 財団法人 堀江オルゴール博物館通信

第 18 号 2010 年 10 月 1 日発行 文責 中田

〒662-0088 兵庫県西宮市苦楽園 4 番町 7-1

TEL.0798-70-0656(ナレオルゴール) FAX.0798-72-0110

<http://www.orgel-horie.or.jp/> Email [info@orgel-horie.or.jp](mailto:info@orgel-horie.or.jp)

## オーケストリオン



リプロデュースピアノが「人間らしさを持った演奏」を成功させ人々に感動を与えると、同じようにオーケストラの演奏も「限りなく人間の演奏に近いもの」に出来ないかと開発を進める動きが 20 世紀のドイツで出てきました。もちろんオーケストラの演奏を再現するのは無理でしたが、様々な楽器が自動演奏する様子は人々を楽しませました。



オーケストリオンの定義は「空気圧を使ってピアノと他楽器（ドラムや鉄琴）を演奏させるもの」ですが、最初の頃はオルゴールのようにシリンダー（筒型）にピンを打ち、それぞれの楽器を作動させていました。シリンダー型は曲が限られること、重さがあり所有者が 1 人で交換出来ないこと、など問題点がありました。1887 年にドイツのウェルテ社が子供でも簡単に交換でき、大量コピーが可能なペーパーロール式を採用すると、同じくドイツのインフォフ&ミュクレ社もそれに倣い、1900 年にはほとんどのオーケストリオンがペーパーロールを使うようになります。1900 年から 1910 年はドイツでオーケストリオンの技術が競うように進歩した時代でした。ちなみに 1914 年にコイン式ピアノが 500 ドル～700 ドルで売られていた当時、オーケストリオンは 1500 ドル～2500 ドルで販売されていました。

オーケストリオンは主にドイツ南西部のシュヴァルツヴァルト（黒い森）地方で製作されましたが、労働者達は各家で作業をすることが多く、この地方の古い家のリビングルームは仕事場と兼用だったため広い面積になっているということです。



インフォフ&ミュクレ社 オーケストリオン  
1905 年 ドイツ製 当館所蔵



左の写真は当館所蔵のフォノリスト ヴィオリーナ 1910 年 ドイツ製のもので、ピアノとバイオリンを使ったオーケストリオンです。1930 年までに Hupfeld 社が 600 台売りましたが、現在作動するものは世界的にも数が減っています。また、右の写真はバンジョー、ピアノ、バスドラム、スネアドラム、トライアングル、シンバルなどが付いたオーケストリオンで当館のロビーに展示しています。



参考文献：David Boweres [Encyclopedia of Automatic Musical Instruments]

インターネットサイト <http://www.mechanicalmusicpress.com>

# 2010年10月のプログラムご案内

## テーマ「オルゴールでオペラを。。。」 10月1日(金)～29日(金)

但し10月4日(月) 12日(火) 18日(月) 25日(月)は休館  
また、10月8日(木)～11日(月 祝)の午後3時は特別演奏会の為、  
通常のオルゴール演奏はございません。

## オペラと歌曲の演奏会



10月8日(木)～11日(月 祝) 午後3時より

3台バイオリンとオーバーチュアーオルゴールで綴る  
～愛の物語～

3つのバイオリンがそれぞれ高、中、低音部を奏でる自動バイオリンと、オペラの序曲を集めたオーバーチュアーオルゴールで、オペラと歌曲の演奏をお楽しみ下さい。館内のご見学も是非どうぞ。小学生未満のお子様の御入館はご遠慮下さいませ。予約の方が優先です。

## オルゴール博物館ニュース

### ショパン生誕200年 記念特別演奏会

9月18日から5日間午後3時よりスタインウェイの自動ピアノで特別演奏会を行いました。名ピアニストがピアノの前に座って弾いているような錯覚を起こす程躍動感あふれる演奏に、お客様も感動していらっしゃいました。新聞などにも掲載され、今回初めて当館を知って頂いた方も大勢お越し下さいました。



### アムステルダム ストリートオルガンフェスティバル!

オランダからストリートオルガンフェスティバルの様子が届きました。街の中心ダム広場で9月11日に行われたフェスティバルには、小型のものから大型のものまで24台のオルガンが各地から勢ぞろい!朝10時から11時まで楽しい音楽が響きました。アムステルダムに40台あったオルガンは現在は3台にまで減り、この文化財を残し、守るためアムステルダムでは毎年この祭りが開催されています。